

土砂災害の可視化のためのVR教材の制作及び活用について

1 要旨

「平成30年7月豪雨災害に関する県民の避難行動調査」の研究結果において、早めの避難を促すためには、災害を可視化するVR・AR等の疑似体験などを通じて、豪雨災害についての正確なイメージを持つことが必要という考察をいただいたところである。

このため、この度、「広島型避難行動推進プロジェクト・チーム」構成員である、みんなで減災推進課、砂防課の連携により、土砂災害の疑似体験ができるVR教材を制作したことから、今後、県の出前講座や市町の防災教室等での活用を促進していくこととする。

2 土砂災害VRの概要

(1) VRの内容

平成30年7月豪雨災害をベースとしたストーリー（フィクション）を、主人公としてVRゴーグルを使って、立体的に体験できるもの

(ストーリー概要)

前日から雨が降り続いていた平成30年7月6日に、避難勧告等が次々と発令されていくが、準備に手間取る等して早めに避難しなかったことから、主人公は山間にある自宅から逃げ遅れてしまう。主人公は2階に避難したことで、どうにか助かるが、土砂災害が発生し自宅が被災する。

【主な特徴】

- 警戒レベル3・4の発令の状況から土砂災害被災までの一通りの体験が可能
- 雨や土砂災害体験のリアルさを体験できる
- ストーリーの中に、行動選択の分岐を設けることで、自分が選んだ選択肢の反省など、事後の学習にも活用できる

※ 本VRは、東広島市消防局・広島大学 防災・減災研究センター制作のものを一部改修したもの。

(2) 制作台数

2台

(3) 活用開始

令和2年10月19日（月）～

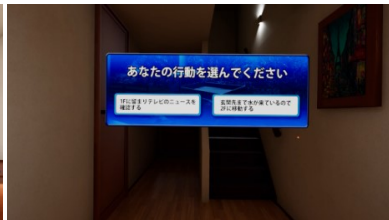
【VRの画面イメージ】



(体験開始場面)



(大雨特別警報発令場面)



(行動選択場面)

3 VR教材の活用方法

- ・県が実施する学校への出前講座等での活用
- ・市町へのVR貸出による防災教室等での活用 など

4 その他

(1) VRの活用日

令和2年10月27日（火） 砂防課出前講座（呉市和庄小学校）

- #### (2) 今回のVR教材以外にもう1種類、有識者等の助言を踏まえた、VR・AR等の可視化技術を活用した教材を制作する予定としている。